

夕暮^{ゆうぐ}れの空^{そら}を、雁^{がん}が飛^とんでいた。

一羽^{いちわ}、また一羽^{いちわ}と、静^{しず}かに飛^とんで

いく。私^{わたし}は、その姿^{すがた}をじつと見^みつ

めながら、遠^{とお}い空^{そら}の向^むこうに思^{おも}い

をはせた。

森^{もり}鴟^{おう}外^{がい}

「雁^{がん}」より